

No. 1157

緑の町づくり

— 滋 賀 ・ 静 岡 —

滋賀県東浅井郡、伊吹山の西方にある浅井町の谷口林業は日本でもめづらしい多層林として知られています。木材の伐採は一定区域を指定した面積的な皆伐が多くとり入れられていますが、ここでは各所有者が特別に現金収入の必要にせまられた時のみ、間引きの形でスギ伐りが行なわれています。従って林地が完全に裸出することがなく、林立密度も高く地力の維持増進に最も適しているといわれます。

しかし、近年では地味な林業産業が若い人たちに人気がなく、山を守っていくのも容易ではありません。こうした現実から、滋賀県では昭和49年、子供のうちから緑の大切さを知ってもらおうと「みどりの少年団」を結成、今年もまた、入退団式が行なわれました。こんな努力が稔って、今では子供たちは緑の町づくりに関心を持ちはじめています。県政100年を祝う静岡県では、植木の展示即売でグリーン・キャンペーン。緑化運動は国民的行事として親しまれているようです。

古都の車屋

— 岐 阜 ・ 高 山 —

“ヘイッ、車屋でござい” まんじゅうがさにはっぴ、ももひき姿がよく似合う、人力車稼業。小京都といわれる岐阜県・高山市は観光客が絶えない。こんな町で、人力車を走らせ昔をしのぼうと企だてた4人の若者たち。

『何かを求めて、いろいろ仕事をしましたが人力車がなくなるのが惜しいなあ—』と思って、この道を選びました』高山の朝は川辺に出る朝市で始まる。もう、その頃には町角に出て客を待つ。

「さあ、お客さんだ」と思ったら、これは記念撮影だけ、「まあ、仕方がない」と笑顔でつき合う。午後になって、やっと客がついた。車屋の顔に活気がみなぎる。「古い町並みの情緒を味わうには速度も適当だし、これ程、人間性にあふれた乗り物はない」山本さんは人力車を引くたびに、そう確信するようになった。

ガイドは本業ではない。というものの、親切が売物、しばし足を止め観光案内。観光客もいいが、早く市民の足になりたいと言う彼ら、今日もやすむことなく走り続ける。